



2023 Summer ARXIA WAVE

皆様の一生涯のパートナー
「人生の根幹を支える」

News Letter

Issued regularly
once every three months

[READ MORE](#)

ARXIA
ARXIA CONSULTING Co.,Ltd

差出人・連絡先
アルシアコンサルティング株式会社
〒251-0023 神奈川県藤沢市鶴沼花沢町2-3PHビル2階
TEL : 0466-54-8417 (平日9:30~17:30)
MAIL : info@arxia.jp

※掲載内容に関するお問い合わせは各営業担当まで

Copyright(C)2023ARXIA CONSULTING Co.,Ltd.all rights reserved.

今後どうなっていく？どう考える？

実は今バブル以来の好景気?!

2023年6月、日経平均株価の終値が約33年ぶりに最高値を更新しました。
アメリカの債務不履行が回避され、投資家の間に安心感が広がったほか、

円相場が1ドル=140円まで円安が進んだことも株価を押し上げる要因となりました。

株価が上昇することは投資をしている人にとっては良いことですが、今後気をつけるべき点について解説します。

さいたかね

日経平均株価が最高値を更新!

今後の動きは

日銀の金融緩和、低金利政策が続くと、今後も株価の上昇が続く可能性はあります。2023年6月時点では日本だけでなく海外の株価も米国の利上げ停止の期待から上昇が続いている状況です。一方で、今後もリーマンショックやコロナショックのような暴落が起きると資産は大きく減少してしまうリスクもあります。

日本株、海外株、債券、何に投資する？

株式相場は常に上がったり下がったりを繰り返していきます。トレンドは今後も変化を続け、株式の下落時には債券の方が株式のリターンを上回ることもあります。相場の先行きを見通し、株式だけでなく債券も組み合わせてバランスを取ったり、株式から債券に「リバランス*①」するなど、定期的に保有資産の割合を点検することが大切です。*①リバランス…保有している資産の割合を変更すること

リバランスとは

運用スタート時に決めた資産配分・・・株式50%、債券50%
株式が上昇すると比率が高くなる・・・株式70%、債券30%
このままだと、株が暴落した場合に、大きく影響を受けてしまいます。そこで、株式を20%売却し、債券を20%購入、もしくは債券を40%分追加購入し、保有比率を株式50%、債券50%に戻す。これがリバランスです。資産形成期には株式を中心としたポートフォリオで資産を増やして、出口が近づいてきたら徐々にリバランスして債券の比率を高めて暴落に備える、という手法も有効です。

まる

資産運用は丸3つ？

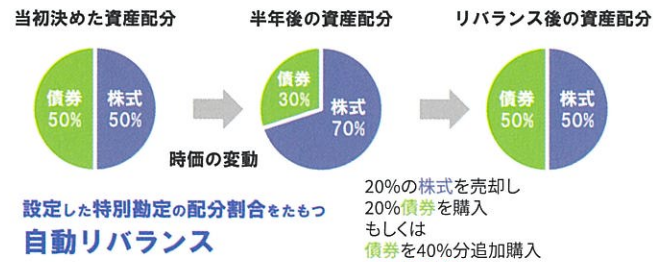
分散投資の重要性

食料品も電気代も値上がりして、円安の影響がいろんなところに出ていますね。銀行預金だけでは、今後ますます厳しい状況になってきます。

- 1.円安になった際の対策ができていますか？
- 2.将来に向けた資産形成ができていますか？
- 3.事故や病気、万が一の対策はできていますか？

確認ポイントは大きくこの3つ。どんな金融商品がいいかではなく、銀行・証券・保険（使う・育てる・守る）をバランスよく保有することが大切です。

加藤「リバランスはご存じですか」



時間の経過とともに相場が変動すると、当初決定した特別勘定への積立金の配分割合は変わります。オートリバランス機能を設定すれば、その資産配分の比率を当初の計画どおりに修正。崩れた資産配分を毎月自動的に元に戻し、リスクを想定範囲内に抑えます。

ご年齢やライフステージ、保有資産の状況に合わせて最適なポートフォリオは変化していくので、定期的に点検しリバランスを行い、資産の安定性を保っていく事が大切です。弊社取り扱い商品には、相場の変動が起こっても当初決定した資産割合に自動でリバランスしてくれる「オートリバランス機能」を備えた商品もあります。今後も株式相場は日々変化していき、時には大きな下落にさらされるリスクもあります。現在お持ちの資産割合の見直しや、今後の運用方法についてご相談は弊社コンサルタントにお声掛けください。

深川「長期、積立、分散投資です」



アルシアコンサルティング 取扱可能商品の一例

- 01 NISA 利益に対して税金がかからない制度。2024年に新制度になる
- 02 iDeCo 掛金の全額が所得控除の対象になる。60歳まで引き出せない
- 03 変額保険 死亡保険金や解約返戻金、満期保険金が運用に応じて変動する
- 04 投資信託 多数の投資家から資金を集め少額から代わりに運用してくれる
- 05 一時払い保険 万が一の保障を取りながら利益が確定している商品がある
- 06 不動産投資 家賃収入と購入以上の値段で売却し利益を見込み、税効果も◎

雨宮「万人にハマるものはないのです だから、私たちがいます」

えっ？NISAと保険って比べる対象なの？

変額保険はあくまで死亡保険なので万が一の際、死亡保険金でまとまったお金が出ます。また死亡時だけでなく「介護」や「がん」になった場合も受け取れる商品が存在します。保険料が運用されていて、途中で解約しても払った分より多く返ってくる場合も。一方でNISAにはそのような万が一の保障はありません。保障がない分、運用に回すお金の割合が多く、変額保険は保障がある分、運用に回すお金の割合が少ない。という特徴があります。それぞれ家庭環境も違えば仕事も違い、考え方や価値観も違いますので、闇雲に「これ」と断定するのは難しいです。来年から始まる新NISAに触れながら改めてポイントを押さえていきましょう。

投資先

変額保険は、保険料の一部が投資商品に積み立てられます。一方でNISAは、株式や投資信託など、金融商品への投資に特化した制度です。

税優遇

変額保険は、一定額までの保険料が所得控除(保険料控除)の対象となります。また、将来的な受け取り金についても税制優遇が多々あります。NISAは運用益が非課税になることが有名ですね。

リターン

変額保険は保障としての性格が強く、リターンは保証されません。また、手数料などコストがかかることも。一方NISAは、資産運用の主目的は収益追求です。ただしこちらも最低保証はありません。

解約後

変額保険は、運用実績により変動はありますが解約返戻金があります。NISAは、口座内の資産を解約することで、元本と利益を受け取ることができます。



例えば、変額保険の中にはがんになってしまったら毎月の保険料を保険会社が代わりに支払ってくれる商品も。病気で収入が減少すれば資産形成どころではありません。将来の資産を確定させる意味でも保険料が免除される特約をつけて積立金の原資を守っていくことをおすすめします。

銀行は現在の生活を防衛

1年分の生活費と5年以内に使うことが分かっているお金は銀行においておきます。日本は6~7割の食料を、エネルギーにいたっては約9割を輸入に頼っています。そのため円安が生活費を圧迫します。現在の生活を守る(防衛・維持)ためにも、日本円だけでなく、外貨資産を保有することが重要になってきます。

証券は将来に向けた資産

世界のGDP(=経済規模)は、人口の増加に比例して拡大し続けています。長期の資産形成においては、そんな経済の成長に自分の資産を乗せることが重要です。単体の株式を保有してもよいのですが、投資信託を使い日本だけではなく、世界の株式に分散投資することが成長を期待でき、かつリスクを抑えることに繋がります。

保険は万が一の備え

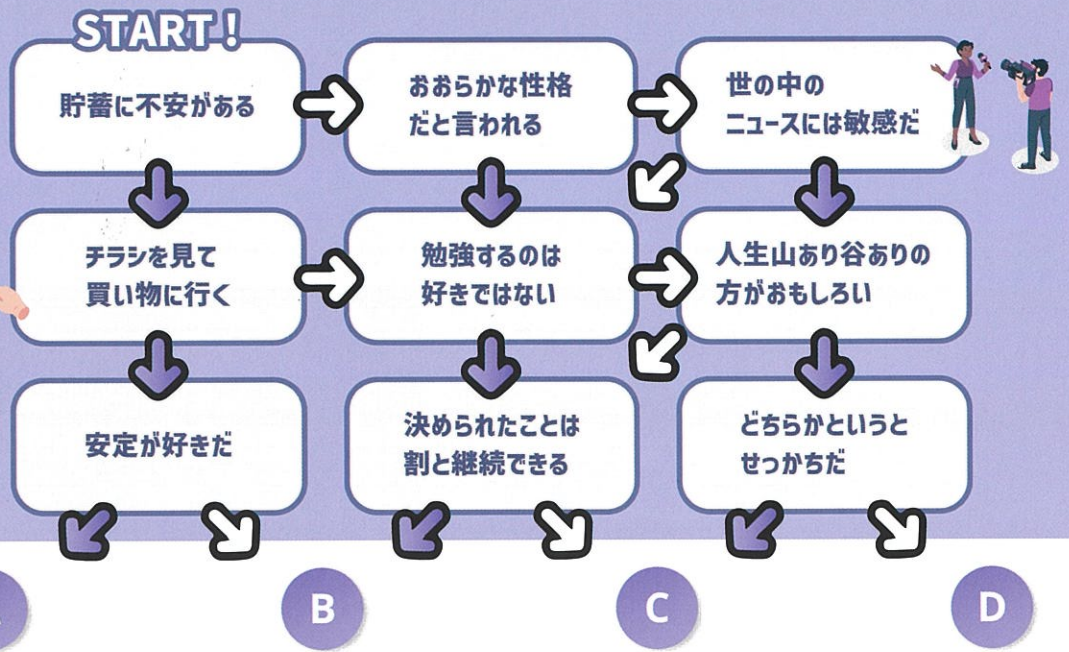
将来のためにNISA枠を使い、投資信託を積立購入していたとしても、万が一の時には継続が難しくなるかもしれません。そんなときのためにも保障は確保しておきたいものです。保険の良さは保障だけでなく、債券で運用しているため将来の受取額がいくらになるか確定していること。ここが株や投資信託と大きく違うところです。

どれかひとつを選ぶのではなく、3つに分散して、無理なく、無駄なく、安心して、ご自身にとってベストな資産形成して下さいね。

古川
「あなたは
どのタイプですか？」

YES NO

GOAL!



A

外貨建て
一時払い保険



B

投資信託・NISA



C

海外投資



D

不動産投資



米国などの高い金利の国債で運用している商品。10年後に受け取れる保険金はドルベースで確定しているものもあり安心。外貨建保険のコストパフォーマンスに驚かれ嬉しそうにご契約されるお客様が多い。各社金利ピークの気配。絶好のチャンスをご相談ください。

1人の投資家が、株や債券、不動産に投資しようとする、たくさんの資金が必要になります。ところが投資信託なら、投資家から集めたお金をまとめて投資できるので、さまざまな資産へ分散投資を行うことができます。さらにNISAは増えた分、つまり運用益が非課税に。

10年後の最低利益が保障されている商品。海外投資に用いるS&P500は、ニューヨーク証券取引所とナスダックに上場している銘柄から選んだアメリカを代表する500銘柄で構成されている。保障されている最低利益よりも上回る可能性がとても高い商品。

他人のお金で投資し、家賃で返済するので手持ちの資金は10万円ほどで始められます。家賃収入と売却益で利益を出します。実は生命保険代わりに。不動産投資に向いていないタイプはすぐに利益を得たい人。流動性が低いので売買契約にも時間がかかります。

資産分散というけれど
どうやって資産をドルに変えるのか。
そんなとき、実は「保険」が使えます



堤「日本円だけで安心？世界に目を向けてみる」

ここ数年、NISAやつみたてNISA、iDeCoといった制度が広く認知され、将来への資産形成を始める方が非常に増えたと感じます。今回は米ドルの優位性についてお伝えしたいと思います。

昨年アメリカがインフレ抑制の為に引き締め政策として大幅な利上げを実行しました。米ドルの金利が高くなれば、米ドルがたくさん買われドル高となる。それによる急激な円安の流れができました。海外旅行や輸入品の購入に影響が大きく、大変な状況ですが、資産形成においては逆に大きなチャンスと言えます。日本円から金利の高い米ドルに変えて資産を分散させる事で高金利の恩恵を受けられます。

実際に保険業界でも米ドル建て商品の金利が大幅にアップ。数年前は2%程度だったものが今では5%を超えています。勿論、日本で生活をする以上日本円は必要です。米ドルを保有する事に抵抗を持つ方もいるかもしれませんが、ただ、日本の人口は毎年減少しています。人口が減る＝経済規模は縮小。預金金利も期待できません。一方アメリカは経済大国であり毎年人口も増加。加えて米ドルの流通量は世界一で、様々な国で基軸通貨として利用されています。株や債券、投資信託や不動産、様々な資産への分散が重要とされていますが、通貨もまた分散する事でリスクヘッジになり日本では得られない金利の恩恵も得られます。今すぐ使わないお金を米ドル建ての保険商品で保有して金利が増やす。万が一の死亡保障を取りながら資産を分散させることが出来るのです。